

# 科学技術振興調整費による「高病原性鳥インフルエンザ対策に関する緊急調査研究」の現在までの主要な成果について

平成16年3月24日現在

## 1 感染経路の解明（ゲノム疫学研究）

これまで国内（山口県、大分県、京都府）で鶏から分離されたウイルスの遺伝子情報を比較したところ、遺伝的に極めて近縁な関係にあることが明らかになった。

国外との比較については、ベトナムでヒトから分離されたウイルスとは遺伝子型が異なっており、韓国で鶏から分離されたウイルスとは遺伝的に極めて近縁な関係にあることが明らかになった。

山口県、大分県で採取された野鳥の検体からはウイルスは検出されなかった。また、京都府については現在検査中。

## 2 ウイルスの病原性解析

わが国の分離株は、鶏に対して高病原性を持つことが明らかになった。

ほ乳類であるマウスに対しては弱いながらも病原性を持つことが明らかとなった。

ムクドリ、カモ、インコにも感染性を示すことが明らかになった。

## 3 ヒトへの感染予防対策

ウイルスの検出系については、H5亜型について高感度簡易遺伝子検出システムの基礎的開発を終了した。

ヒト用のワクチンや診断法開発の第一段階として、山口県分離ウイルスやベトナムでヒトから分離されたウイルスの弱毒化を行っている。

ヒトの臨床対応マニュアルを策定中。